

住宅火災の被害を防ぐため住宅用防災機器を備えましょう!



その住宅用火災警報器 いざという時に鳴りますか?

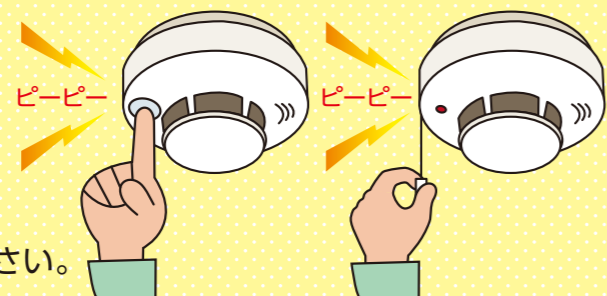
住宅用火災警報器は、経年による電子部品の劣化や電池切れなどで火災を感知しなくなったり、故障しやすくなったりすることがあります。定期的に点検を行い、作動しない場合は電池や住宅用火災警報器本体の交換を検討しましょう。

住宅用火災警報器 | 点検の方法

テストは、本体のボタンを押すか、付属のひもを引いて点検します。

正常な場合、正常を知らせる音声や警報音が鳴ります。

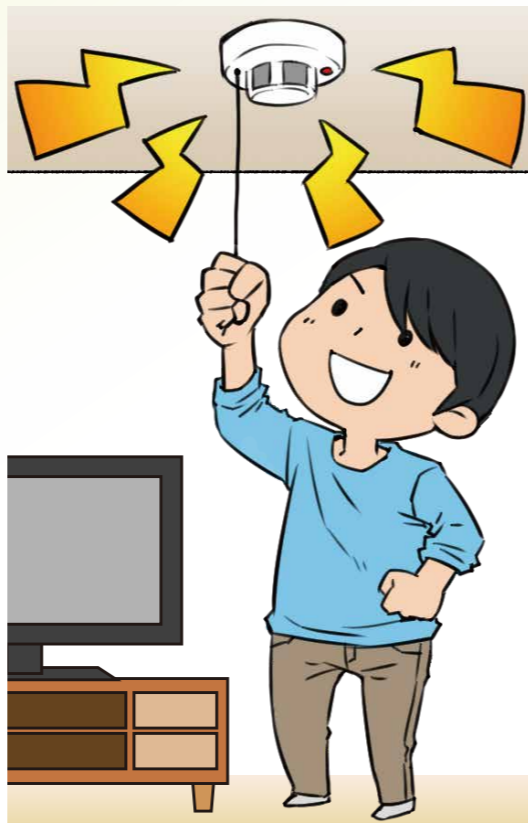
詳しくは説明書をお読みください。



<音が鳴らない時は>次のことを確認しましょう。

- ・電池切れではありませんか?
- ・電池はきちんとセットされていますか?

上記の確認をしても鳴らない場合は、住宅用火災警報器本体の故障が考えられます。本体の交換をしましょう。



日頃のお手入れ

住宅用火災警報器にホコリが付くと火災を感知しにくくなります。汚れが目立ったら、乾いた布でふき取りましょう。

台所に取り付けた住宅用火災警報器は、油や煙などで汚れが付くことがあります。布に水やせっけん水を浸し、十分絞ってから汚れをふき取りましょう。



本体の交換

何年も前に設置された住宅用火災警報器は、経年により電子部品等が劣化します。

設置年月や製造年を確認し、取扱説明書等を読み設置10年を経過したものは、本体の交換を検討しましょう。



ピッ...ピッ...と音が鳴ったり、ランプが点滅するのは故障や電池切れを知らせるサインです。

警報器が鳴った時は?

<火災の時は>

- ・大声で周りに火災を知らせ、119番通報をしましょう。
- ・可能なら消火を行ってください。
- ・消火が難しそうな場合は、速やかに避難してください。

<火災ではない時は>

- ・火災以外の湯気や煙などを感知して警報が鳴った時は、警報音停止ボタンを押すか、付属のひもを引きます。また、室内の換気をする、警報音は止まり通常の状態に戻ります。

家中の火災を知らせる 連動型住宅用火災警報器

出火室から離れた部屋に就寝していた場合など、住宅用火災警報器の鳴動音が聞こえず逃げ遅れるなど被害が拡大することがあります。

火災が発生すると設置された全ての部屋の住宅用火災警報器が一斉に鳴動する連動式のものがありません。

出火室と別の部屋にいても早急に火災を知ることができます。



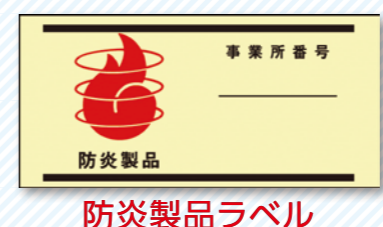
防災製品 火災から身を守るため、身の回りの物を防災製品にしましょう!



寝具や着衣など身の回りの物への着火による事故や火災が多く発生しています。

防災製品は、火が接しても着火しにくく、燃え広がるのを防ぎます。防災製品には寝具類、エプロン、アームカバーなどがあり、ホームセンター等で購入できます。

火災から身を守るため防災製品を使いましょう。



防災製品ラベル



布団による燃焼比較実験

防災製品 非防災製品



「防災製品ラベル」が安心の目印です。



住まいの防火防災診断



「住まいの防火防災診断」とは、高齢者、障害者の方など、災害発生時に支援が必要な方のお宅を消防職員が戸別に訪問し、火災、震災、家庭内事故等の危険性をチェックし、安全・安心な生活を送るためのアドバイスなどを行うものです。

一回あたりの診断の所要時間は約30分です。

診断項目の一例

- 【火災予防】暖房器具やガスコンロなどの使用状況、住宅用火災警報器の設置・維持管理状況など
- 【地震対策】家具類の転倒・落下・移動防止対策など
- 【家庭内事故】階段、床等の転倒危険個所の状況、浴室内事故の危険性など

消火器 ご家庭に消火器を備え、適切な使い方を身に付けましょう。



消火器による初期消火は、火災の被害の抑制に非常に効果的です。火を使う場所には、消火器を備えましょう。

消火器には、共同住宅等で設置が義務付けられている消火器のほか、一般住宅向けの小型で軽量の住宅用消火器や片手でも使用できるスプレー式のエアゾール式簡易消火具があります。

いざという時に備えて、地域の防災訓練や消防署のイベントに参加して消火器の適切な使い方を身に付けましょう。

※消火器には使用期限が定められています。
※消防職員が住宅用防災機器を販売することはありません。悪質な訪問販売や点検、消防職員を騙る不審な電話にご注意ください。

